

# 中部地方の概要

## 1. 中部地方の特性

国際的に競争力のある「ものづくり」産業の集積が顕著。さらに、II等の先端的産業の拠点づくりが進行中。

自立性の強い都市群が名古屋周辺を中核として「Q」状に取り巻いている地域構造。

東京圏、大阪圏のいずれとも連担し、その中央に位置。

## 2. 中部地方の課題

産業の国際競争力向上のためのソフト・ハードのインフラが整備途上。

情報関連産業を支援するソフト・ハードのインフラが整備途上。

地震、洪水、渇水、津波高潮等の自然災害に対するソフト・ハードのインフラが整備途上。

1次産業や豊かな自然・歴史・観光などの価値が多様な主体に十分理解され、「交流」によってそれをお互いに享受できるソフト・ハードの前提条件が不足。

在来型の観光が低迷。観光ニーズの個性化・多様化に対応した新しい観光資源の発掘が不十分。特色ある国際観光が未成熟。

ゴミの削減の努力はしているものの、既存の処理場には限界、リサイクルや健全な水循環等を含めた循環型社会の形成や環境保全のための技術開発が本格化の前段階。

名古屋圏においては、良好な居住環境の整備、都市内交通の円滑化、下水道やゴミ処理都市内の水辺空間、伊勢湾の水質改善、大気汚染などといった都市の活力や都市環境面に課題があり、その魅力や国際競争力の発揮に障害。

静岡・浜松を核とする中枢拠点都市圏においては、名古屋圏、東京圏との適切な機能分担と高次都市機能の強化が不足。

中部地方の各都市においては、地域活力が低下。また、慢性的な交通渋滞などにより都市生活に過重な負担。

## 3. 中部地方の目指すべき方向

世界に通用する「ものづくり」がなければ日本が成り立たないとの認識から、国際的な競争力のあるものづくり産業の集積を図る。

分散した都市配置と広範囲な農業地帯を抱えるという現状を活かし、生産・暮らし・環境・安全が調和した圏域づくりを進める。

暮らしの成り立ちや豊かな自然・歴史・観光についての圏域内の多様な主体の理解を深め、徹底的な交流を実現する。さらに、2005年日本国際博覧会、中部国際空港の開港等を契機に、国内や世界との交流の活性化を強力に推進する。

国土の中央に位置していることを踏まえ、高速交通体系の整備充実により東京圏、大阪圏との適切な機能分担を図り、国際的に通用する圏域の形成を目指す。